

国指定史跡

黑井城跡



黒井城跡の縄張りと遺構

主郭部は猪ノ口山の山頂を平らに削り築かれ、中央よりやや西側の最も高く広い場所に本丸が配置されています。西側に西曲輪を接続させ空堀を隔てて二の丸、そこから階段状に少し南側に下りながら三の丸、東曲輪が配置されています。また、これらを取り巻いて南北に約5mの段差で帯曲輪を巡らせています。これらの縄張りは中世の山城で多くみられるものです。

城の虎口(入口)周辺と、本丸、二の丸の南面には自然石を使った「野面積み」と呼ばれる手法で積み上げられた石垣が残っています。これらの石垣は、黒井城落城後に城下の統治にあたった斎藤利三、堀尾吉晴などの織田・豊臣政権下の武将によって築かれました。

主郭部にどのような建造物が建っていたかは、資料が乏しいため不明ですが、軒丸瓦・軒平瓦・鯨瓦などが出土していることから、瓦葺の建造物があったと推定されています。



保月城跡の石碑

黒井城は別名「保月城」とも呼ばれており、本丸に石碑が建っています。



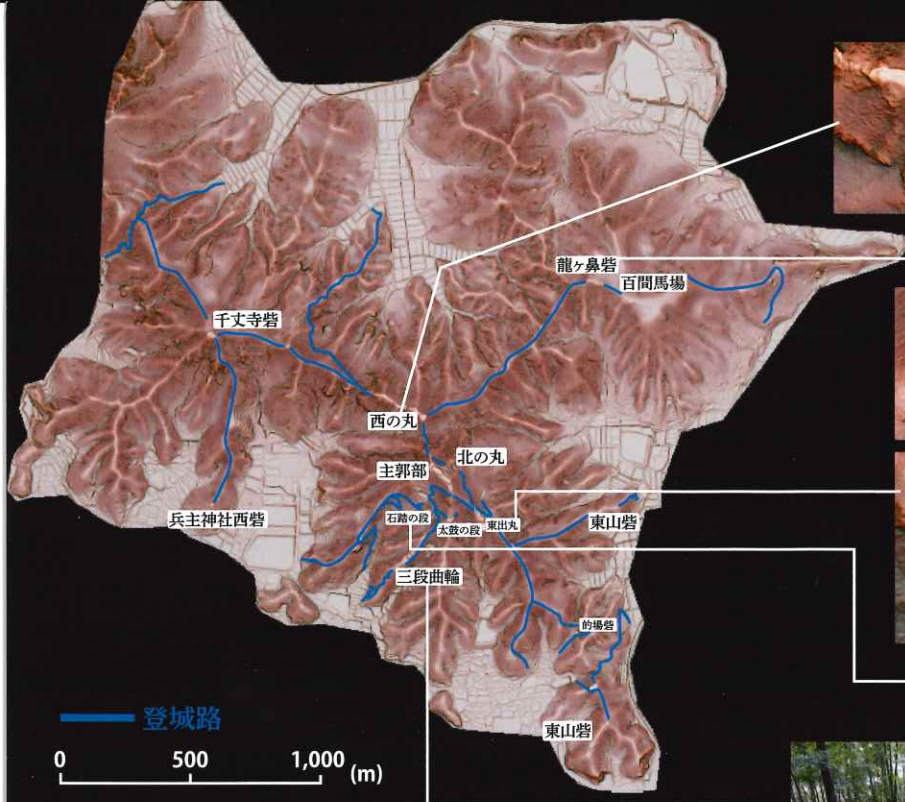
本丸前小曲輪下の石垣

本丸へ通じる小曲輪下の石垣です。一部崩落していますが、高く積み上げられた織豊期における石垣の発達段階をみることができます。



東曲輪の石垣

主郭部の入口にあたる東曲輪の石垣には、右側隅角部が後に積み足されている形跡があります。



西の丸

主郭部より西側に配置された曲輪で、小城とも呼ばれています。建造物があったと考えられており、土塁・櫓台・切岸などの遺構が良好に残っています。



龍ヶ鼻砦

主郭部から北側の尾根の最前線に配置されており、守りを固めています。



ひがしでまる

東出丸

東側の尾根筋の防御のため土塁を高く積み上げ、周囲には空堀をめぐらせています。



さんだんぐるわ

三段曲輪



せきとう だん

石踏の段

城の中心である主郭部を守るため、Y字状に伸びる猪ノ口山系の4つの尾根それぞれに、曲輪や砦を配置して防御を固めています。これらが完備されたのは天正3年(1575)から同7年(1579)の丹波平定のため侵攻する明智光秀との攻防戦に備えたところと考えられます。

大手道である正面の南尾根には三段曲輪を配置し、続く7合目あたりには規模の大きい石踏の段と太鼓の段を構えて敵の進行に備えます。

また、東尾根に東出丸、北西側に北の丸、さらに深い谷を隔てて西の丸を同じ等高線、横一線に配置して相互の連絡ルートを設定する形で、主郭部周囲を守っています。このルートは敵の進行に合わせて味方が各曲輪間を移動して戦うための工夫で、戦国末期の山城でよく見受けられます。

その他にも、主な尾根上の約1km前後の位置に、最前線の防御拠点として東山砦、龍ヶ鼻砦、千丈寺砦があります。これらの砦は、曲輪や土塁、堀切などを築くとともに、味方の軍勢の駐屯地となるような平坦地も確認されており、独立した城郭として機能を果たすことも考えられていました。



くろいじょうあとしゅつどいぶつ

黒井城跡出土遺物



黒井城跡の歴史

黒井の町並みのすぐ北側にそびえる黒井城跡は、猪ノ口山(標高356m)に築かれた山城で南北朝時代の建武2年(1335)に赤松貞範が山頂に築いた砦が始まりといわれています。その後、城主の変遷などもありましたが、天文23年(1554)に荻野直正が叔父である荻野秋清を暗殺して城を奪い城主となります。

直正は元亀元年(1570)、織田信長に服属しましたが、翌2年(1571)に同じく織田方に属していたはずの隣国・但馬の山名祐豊が氷上郡に侵攻してきます。直正はこれを撃退し、但馬への逆侵攻を開始します。この事態に窮した祐豊が信長に救援を求め、天正3年(1575)に信長配下の明智光秀が丹波平定に向かい、黒井城の合戦が始まります。直正は巧みな攻防戦を繰り広げ、一度は光秀を氷上郡から撤退させるも、天正7年(1579)に行われた2回目の合戦で黒井城は落城しました。その後、黒井城は織田方の城として使用され、主郭部に石垣が築かれるなどの改修が行われましたが廃城となり、現在に至ります。

黒井城跡は中世の城郭から織豊期の城郭へと、新しい時代へ移り変わる様子が残されている城跡として、平成元年(1989)に国の史跡に、同29年(2017)に続日本100名城に指定されました。



荻野直正



赤井悪右衛門討死乃図(絵本太閤記)

黒井城主であった荻野直正は、甲斐武田氏の甲州流軍学書『甲陽軍鑑』の「名高き大将衆」13人に数えられるほどの名将で、「丹波ノ赤井悪右衛門」と記され、「丹波の赤鬼」と恐れられていました。直正の幼名は才丸といい、享禄2年(1529)に後谷城(丹波市氷上町新郷・谷村)の城主・赤井時家の次男として生まれました。その後、朝日城(丹波市春日町朝日)を拠点とする荻野十八人衆の盟主として荻野家に入り、荻野姓を名乗ります。天文23年(1554)1月2日、年賀の席にて叔父で黒井城主の荻野秋清を殺して黒井城主となり、悪右衛門と名乗りました。永禄8年(1565)には、丹波守護代で八木城主の内藤宗勝を倒し、勢力を拡大させていきました。

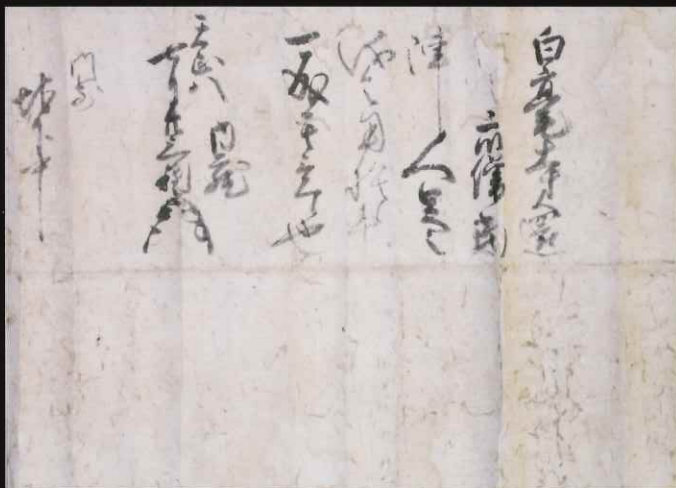
一方で、織田信長が東側で勢力を拡大させており、直正は信長に対して一度は服従しますが、但馬此隅城を拠点とする山名氏との関係が悪化

したことが一因で離反、信長と敵対することになります。

これを受けて信長は、天正3年(1575)に明智光秀を総大将として丹波平定へと乗り出します。まず光秀は、八上城主・波多野秀治ら丹波の国人衆の大半を服従させて、直正らが籠城する黒井城を包囲、来春には落城するだろうとの噂が出る状態でした。しかし、翌4年(1576)1月15日、秀治が直正側へ寝返って光秀の陣を急襲、総崩れとなった光秀は壊滅的打撃を受けて栗柄峠方面への撤退を余儀なくされました。これは後に「赤井の呼び込み戦法」と呼ばれています。その後、信長は直正を許しましたが、その間も反信長勢力(武田氏・毛利氏・石山本願寺)と連携を取っていました。

しかし、天正6年(1578)3月9日に直正は死去します(享年50)。一説には首切り疔(首の周囲にできる腫物)を病んでいたともいわれています。直正の訃報はすぐ光秀にも伝わり、再度、丹波への侵攻を開始します。翌年6月1日に八上城が落城、続く8月9日には黒井城も落城しました。

斎藤利三と春日局



斎藤利三下知状(白毫寺蔵)

天正7年(1579)黒井城落城の後、戦後統治にあたったのが、明智光秀の重臣斎藤利三です。利三は黒井城とその下館(現在の興禅寺)を拠点として奥丹波一円の統治にあたりました。北の城下にある白毫寺には、利三の軍役容赦の下知状が残されています。

黒井城下に活気が戻ってきた頃、利三は亀山城から妻お安と子どもたちをこの下館に呼び寄せました。



春日局肖像画(模写)

そして、この年の暮れも間近い頃、生まれたのが、お福、後の春日局とされています。春日局は、三代将軍家光の乳母を務めるなど、大奥の実権を握りました。

歴代黒井城主

あかまつさだのり

赤松貞範

赤松則村の次男。建武の乱では父とともに足利尊氏について戦功をあげて、播磨伊川庄・丹波春日部庄ほか二十一ヶ所を領し、美作の守護職に任じられていました。黒井城は貞範が丹波春日部庄を領して以降に築城されたと考えられています。

おぎのあききよ

荻野秋清

酒梨の留堀城を館とし、春日部庄を中心に天田郡の一部をも支配していました。しかし、家臣の長谷城の城主秋山修理太夫が八上城の波多野晴通によって討たれたことや、敬信の念が篤く、領内の円通寺などに領地を寄進し経済基盤を削ったことから家臣に不信を抱かれ、天文23年(1554)1月2日、甥の直正が中心となった謀反を起こされ亡くなりました。なお、死後は直正が建立した清安寺(非現存)に弔われています。

あかいなおよし

赤井直義

直正の次男。9歳の時に第2次黒井城合戦が起こり、落城の際には脱出に成功しました。この時、城主は長男の悪七郎だったとも、悪七郎が若くして亡くなり直義も幼いため直正の弟幸家が城代として務めていたともいわれています。その後、伊勢国津藩主藤堂高虎に仕え、先祖の名に戻すよう命じられて赤井姓を名乗ります。また、直正と同じく悪右衛門と称していました。

あかいときなお

赤井時直

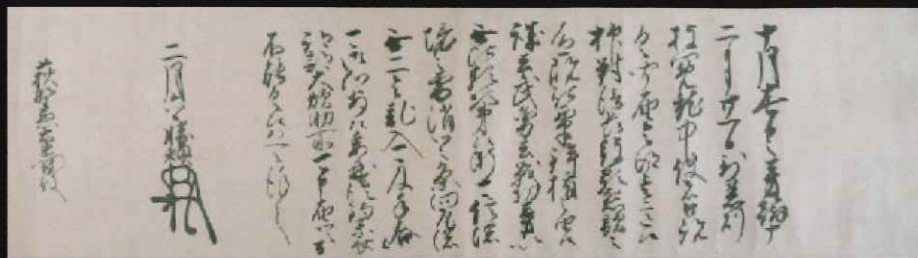
直正の末弟。黒井城落城時は後谷城主だったと考えられています。黒井城落城後の天正12年(1584)4月、小牧・長久手の戦いで徳川方に呼応して一揆を策動し、黒井城と余田城に立て籠もりました。この時、徳川家康から丹波国のことは赤井氏の存分に任せると約束されています。慶長6年(1601)、一族の山口直友が丹波国奉行に任じられ、この約束が果たされました。

その他ゆかりの人々

ただかつより

武田勝頼

甲斐の戦国大名・武田勝頼と直正の間には、反織田勢力として情勢を知らせ合う書簡の往来がありました。



武田勝頼書状 萩野悪右衛門宛

東西呼応して立ち上がろうと跡部勝資・長坂光堅などの密使がたびたび来城しました。

きつかわもとはる

吉川元春

中国の雄、毛利輝元・吉川元春・小早川隆景と直正を中心とする丹波・但馬の諸豪は信長打倒への上洛作戦「三道併進策」の盟約を結びました。吉川家文書などにその緊迫した動静がうかがえます。毛利の外交僧安国寺恵瓊も度々当地を訪れています。

けんによ

顕如

信長と敵対する直正は、石山本願寺とも気脈を通じていました。本願寺第11宗主の顕如の家老であり、一向一揆を指導していた中心人物の一人である下間頼康との間につぶさに情報のやりとりがあり、その書状が残っています。

周辺の史跡・城郭



小富士山城跡

旧宮津街道の抑えとして築城され、黒井城攻めの際に光秀の陣城が置かれたと伝わっています。



三尾城跡

直正の弟、赤井幸家が城主となっていた黒井城の支城で、明智勢からは国領城と呼ばれていました。周辺は街道が通る黒井城東側の最重要地点であり、数ある支城の中でも特に重要な城です。黒井城落城後に赤井残党が籠城、これを陥落させて光秀は3年の鬱憤を散らしたといっています。



金山城跡

赤井氏と波多野氏の勢力を分断するために築かれた城です。丹波市と丹波篠山市の境にあり、鐘ヶ坂峠を通じて両市に至る要衝の地で、山陰道を分断する形でこの城が存在しています。山頂部からは黒井城、八上城、高見城などの赤井氏、波多野氏の城を展望することができます。



柏原藩陣屋跡

丹波市柏原町にある柏原藩の藩邸です。織田信長の次男、信雄の子孫である信休が正徳4年(1714)に築きました。長屋門と、文政3年(1820)に再建された表御殿の一部が現存しています。赤井氏や黒井城との関係性はありませんが、黒井城と同様に国の史跡に指定されています。



興禅寺(黒井城の下館跡)

黒井城の下館跡があった場所は、山上の黒井城跡とともに国の史跡に指定されています。現在は、明暦4年(1658)に移築された興禅寺が建っています。また、境内より100mほど南には、黒井城の城門の部材を用いて建てられたと伝わる総門があります。この地は萩野直正・近衛前久・斎藤利三らが過ごしていただけでなく、春日局が生まれた場所でもあり、その産湯の井戸や腰掛け石が残されています。

年 代	事 項
建武2年 (1335)	赤松貞範、丹波国春日部荘を領する。
天文11年 (1542)	赤井才丸、朝日村萩野十八人衆の盟主となり、萩野直正を名乗る。
天文23年 (1554)	直正、叔父の黒井城主・萩野秋清に謀反を起こし、殺害。自ら黒井城主となり、城の改修に着手する。 この頃に号を「悪右衛門」と称す。
弘治3年 (1557)	兄・赤井家清戦傷により死去。 直正、幼い甥・忠家の後見人として、赤井一族を率いる。
永祿8年 (1565)	直正、多紀郡を除く丹波地域を支配する。
永祿11年 (1568)	織田信長、足利義昭を奉じて入洛。
元亀元年 (1570)	直正、信長に服命する。 これにより丹波奥三郡(氷上、天田、何鹿郡)を安堵される。
元亀2年 (1571)	但馬国の山名祐豊らが氷上郡へ侵攻、山垣城(丹波市青垣町)を攻める。直正と忠家が救援し、山名氏が撤退。 その余勢で但馬国へ侵攻、竹田城(朝来市)を攻略する。
天正3年 (1575)	信長、明智光秀を丹波へ派遣し、丹波平定へと駒を進める。 直正、織田勢の進軍を聞き、竹田城を撤退。黒井城で籠城する。 光秀、丹波の国人衆の過半を服従させて黒井城を包囲する。
天正4年 (1576)	丹波の国人衆が離反し、光秀ら織田勢が撤退する。 これを後世に『赤井の呼び込み戦法』と呼ぶ。
天正6年 (1578)	直正、病没する。
天正7年 (1579)	光秀ら織田勢による総攻撃が開始され、黒井城が落城する。 光秀、重臣の斎藤利三に代官を命じ戦後統治を行う。
天正10年 (1582)	光秀、本能寺にて信長を急襲(本能寺の変)。その後、山崎の合戦にて羽柴秀吉に敗れ、丹波地域から光秀の勢力が消滅する。 同年、堀尾吉晴が黒井城に入城する。
天正12年 (1584)	小牧・長久手の合戦が起こる。直正の弟・時直が黒井城に立て籠もり一揆を策動する。文書等に黒井城が登場するのは、これが最後となる。
平成元年 (1989)	国の史跡として指定される。
平成29年 (2017)	続日本100名城に選定される。

用語解説

くるわ
曲輪…城を構成する区画。

どるい
土塁…土を盛り上げ築いた堤防状の塁壁。

ほりきり
堀切…山城で、敵が尾根から侵入することを防ぐため、尾根を断ち切るように設置した堀。

きりぎし
切岸…山の斜面を削って作られる人工的な急斜面・崖の相称。

こぐち
虎口…曲輪への出入口。

ACCESS

JR福知山線 黒井駅から徒歩約15分

登山口から山頂まで約40分

舞鶴若狭自動車道 春日ICから車で約7分

※周辺の地図や登山ルートについては
下記のQRコードより確認できます



黒井城跡
周辺マップ



黒井城跡
登山ルート



丹波市教育委員会

社会教育・文化財課

〒669-3198 兵庫県丹波市山南町谷川1110

TEL:0795-70-0819 FAX:0795-70-0814

<https://www.city.tamba.lg.jp/soshiki/shakaikyoikubunkazaika/index.html>

令和7年6月発行



丹波市マスコットキャラクター
丹波竜のちーたん